

趣意書

寄附金募集概要

北海道大学低温科学研究所は、昭和16年（1941年）に北海道大学初の附置研究所として設立された歴史を有しています。以来、雪氷学に留まらず、低温や寒冷圏に関わるさまざまな自然現象に焦点をあてたユニークな研究所として発展を遂げてきました。

附置研究所のもっとも大きな役割の一つは、大学でしかできない長期的展望に立った独自性のある研究を生み出すことです。低温科学研究所では、地球環境システムにおける寒冷圏の重要性に鑑み、北海道に隣接する環オホーツク海地域をはじめとして、南極、北極など、世界各地の寒冷陸域・海域において多様なフィールド研究を展開し、大きな成果を挙げてきました。また、低温環境下で現れるさまざまな特異な現象に対して、物理・化学、地球化学、生物学といった基礎科学の見地からアプローチし、数多くの独創的かつ先進的な研究成果も挙げています。同時に、国内外のさまざまなコミュニティに貢献することも低温科学研究所の重要な責務です。研究所の特色を活かし、既存の学問分野にとらわれない斬新な研究を先導し、分野横断型の共同研究プロジェクトを推進するとともに、積極的な国際連携も視野に入れた新しい研究コミュニティの創成を目指しています。

低温科学研究所は、比較的小さな規模にもこだわらず、研究者の専門分野は多岐にわたります。このことは各研究者が個々の分野にかかわらず、研究者同士のコミュニケーションを密にし、広い視野で学際的な研究を推進する上での長所になっています。これからもこの特色を活かして、絶えず新しいサイエンスを模索し、そこで働く研究者、事務職員、技術職員に加えて、そこで学ぶ大学院生が一丸となって、世界で最もユニークな研究所を目指すとともに、多様な社会的要請に応えていく所存です。

低温科学研究所では、研究のさらなる発展のため科学研究費補助金等をはじめとした外部資金の獲得に日々努めておりますが、研究の第一線で働き、日本・世界の将来を担う若手研究者・大学院生等の研究環境を整えるとともに、彼らの研究生生活をサポートするためには、さらなる資金が必要です。

つきましては、将来を担う若手研究者・大学院生たちの研究活動を支えるために、本学同窓生ならびに本基金の趣旨に賛同いただける皆様からのご芳志を募らせていただきます。何卒、ご支援とご協力を賜りたく、心からお願い申し上げます。

北海道大学低温科学研究所長 山口 良文